



## 3学期スタート



あけましておめでとうございます。

今日から3学期が始まりました。

子どもたちは19日間をどのように過ごしたのでしょうか。年末から年始にかけての習わしは経験できたでしょうか。それぞれの意味などを知りながら、伝承していけたらと思います。

さて、今年令和4年（2022年）は、寅年（「壬寅（みずのえ・とら）」）です。

『十二支や十干は数や方角だけでなく、それぞれ独自の意味を持っています。例えば「壬」が持つのは第9位の他、女性のお腹に子供を宿す「妊」の一部であることから「はらむ」「生まれる」という意味です。「寅」はもともと「演」が由来といわれ「人の前に立つ」、演と同じ読みの「延（えん）」から「延ばす・成長する」という意味を持っています。この2つの組み合わせである壬寅には、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさを表しているといえそうです。』



(<https://raksul.com/magazine/column/new-year-card-zodiac/>より引用)

別のサイトでは、次のような説明がありました。

『虎は、毛皮の模様から前身が夜空に輝く星と考えられていた存在。『決断力と才知』の象徴としての意味もあり、縁起物としても親しまれています。「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、「寅」は「蟻（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」という意味があります。そのため「壬寅」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージです』

(<https://www.quocard.com/column/article/eto2022/>より引用)

令和2年、3年は、新型コロナウイルスに感染しないように、いろいろな制約の中である意味「耐えて」きた時期だったと思います。これが、「厳しい冬」だとすれば、今年は、『芽吹き始め、新しい成長の礎』となるのではと期待をしています。

心配なことは、秋以降新規の感染者がほとんどなかった新型コロナウイルス感染症ですが、報道などでは、年始早々感染者が増えているようです。感染力が強い「オミクロン株」も増えているようですが、これまでの感染防止の努力を継続し、「with コロナ」の中でも、子どもたちがさらに成長する年となるよう努めていきたいと思います。

1月18日は満月です。月は楕円軌道で地球の周りを回っています。そのため、時期により地球との距離が若干変わります。この日は、月が地球から最も遠い時期の満月です。反対に、一番近い時期の月は「スーパームーン」と呼ばれることがあり、2022年では7月14日がそれにあたるようです。肉眼で大きさの違いが分かるほどではないようですが、寒さ対策をして眺めてみてはいかがでしょうか。

### おめでとうございます！

新しい年にうれしい報告です。2年2組担任の保坂愛先生が、冬休み中に入籍されました。お相手は、昨年まで敷北小に勤務していた小倉貴大先生です。保坂姓はそのままでそうです。末永くお幸せに♡